令和５年度第１回小田原市青少年未来会議　会議録

１　日　時：令和５年６月29日（木）　午後３時～５時30分
２　会　場：小田原市役所本庁舎　大会議室（７階）
３　出席者
⑴ 委員　　笠原会長、本多副会長、吉田委員、富樫委員、永森委員、益田委員
　　中島委員、加藤委員、岩崎委員、塩浦委員、伊東委員、竹内委員
⑵ 市職員　【子ども若者部】山下部長、中井副部長
　　【青少年課（事務局）】筒井課長、藤野係長、吉村主査、神田主任、
　　内田主事、小西主事補
⑶ 傍聴者　　０人
４　次第
⑴ 開会
⑵ 会長挨拶
前回の会議からあっという間に年度が替わり、新たなメンバーを迎えて、本格的な議論を始める。前回はお互いの距離感があり、マイクを使わないと声が届かなかった。今回は、机の距離を近くしてマイクが不要な距離にし、柔軟に活発に議論が出来ればと思っている。前回の未来会議では、方針の柱となる目標について様々なご意見をいただいた。その後、４月20日に部会を開催し、皆様からいただいたご意見をもとに、目標と基本方針の案を作成していただいたので、部会長の益田委員より後程ご報告をいただく。本日は、方針の目標と基本方針の決定が最終ゴールになるので、時間内で決定をしたい。どんなに些細なことでも、積極的にご発言をいただき、市民の方にとって共通の道しるべとなる方針を策定したいと思っておりますので、よろしくお願いします。
⑶ 報告
ア　令和４年度青少年関係事業の実績報告（資料配布のみ）
イ　令和５年度青少年関係事業の予定（資料配布のみ）
⑷ 議題
ア　「（仮称）小田原市青少年健全育成施策推進方針」の目標と基本方針について
①体系とスケジュールについて（事務局説明）
②目標と基本方針について（部会からの報告）
③委員で協議し、目標と基本方針について決定
⑸ その他（事務連絡等）
⑹ 閉会
５　会議の概要　　【議事進行は笠原会長】

| 議　題<br>（１）協議事項<br>ア　「（仮称）小田原市青少年健全育成施策推進方針」の目標と基本方針について<br>①体系とスケジュールについて | |
|---|---|
| 事務局（吉村） | 資料のとおり説明。 |
| 吉田委員 | 子ども計画に具体的な施策が入るということだが、子ども計画には、（仮称）小田原市青少年健全育成施策推進方針以外の考え方はどのような内容が入ってくるのか、分かっている範囲で教えていただきたい。 |
| 山下部長【事務局】 | 子ども計画は子ども基本法に基づき市町村で作成するものとなっており、前身の子ども子育て支援事業計画を引き継ぐもの、それをベースに健康対策推進計画が総合計画に包含されているので、そちらも引き継ぐ。その上で、各それぞれの事業があり、そのうちの若者に関する事業については、 |

| | |
|---|---|
| | （仮称）小田原市青少年健全育成施策推進方針をもとに、事業の構成をしていただき、子ども計画に盛り込んでいきたい。 |
| 吉田委員 | 子ども計画にどのくらいの重みで、（仮称）小田原市青少年健全育成施策推進方針が位置づくのかにより、実施方針の広がりが違ってくるかと思い、そのあたりを勘案しながら考えていく必要があるかと思った。 |
| ②目標と基本方針について | |
| 益田委員 | 資料のとおり説明。 |
| ③委員で協議し、目標と基本方針について決定 | |
| 中島委員 | 子ども若者の「多様性を認め」の多様性はどの程度の範囲か。<br>具体的にどういったことを「生かしていく」のかも教えてほしい |
| 益田委員 | 多様性、生かしていくといったことについて部会の中でも話は出た。<br>生かしていくことについても、「生かす」、「活かす」なのかで意味も違ってくると議論をしていた。 |
| 笠原委員 | 多様性の範囲は特に決めていない。一般的に使われている言葉を持ってきている。そこまで限定すると、中々難しいのではと思った。ある程度具体的な確認が必要であれば、定義するが。 |
| 吉田委員 | 多様性は本来、限定する言葉ではない。多様性は全ての物を受け入れるといった言葉で、何があっても良い、定義するとそこから零れてしまうものもある。あえて枠組みを作らないで、全ての子ども若者と一緒になってやっていく、といったことが重要なのではないか。 |
| 中島委員 | 小学校の中で、発達障がいの子など含めて、全ての方を含んだという捉え方でよいと思うが、生かしていくといったことはどんな取り組みがあるのか。 |
| 笠原会長 | 益田委員からも先程、部会の報告でもあったが、県の方針で、「育成・支援」から「支援」に方向転換しており、ここをどのように捉えていくのかがとても重要で、吉田委員からもご意見があった。 |
| 山下部長【事務局】 | 小田原市の教育大綱から引用しており、基本目標の中に「多様性を認め、生かしていく教育のまちづくり」と記載されている。それを受けて、「ひとや地域が持つ多様性を認め合い、伸ばし、生かしていくとともに、デジタル化社会に向けた教育を推進します。」と謳われている。事務局としては、吉田委員の意見にあったように、線引きをしたくないといった感覚はある。 |
| 中島委員 | 社会に広げたとき、生かすと目標に掲げたら、取り組みが必要で、具体策を考えた時にどうすべきかと思い、質問させていただいた。 |
| 笠原会長 | 従前の施策に当てはまらないであろうこともある。新たな計画を策定する中で、そうしたことも含めて、考えていく方向であると言われているので、具体的な施策に反映するという前提で議論を進めていきたい。 |
| 吉田委員 | この目標の主語は何なのか。認めるは周囲の人、生かしていくは若者なのか。主語がねじれてしまっていると感じ、認めと生かしていく、の主語が分からない。認めといったフレーズも、偉そうで少し上から目線に感じる。多様性は認めるということではないと思うし、出来れば主語は子ども若者で、個々の多様性を生かしていけるように支援する方が良いのではと感じた。 |

| | |
|---|---|
| 笠原会長 | 堀内委員からも主語が明確ではないので、明確にした方が良いのではとご意見があった。部会の中では、主語を規定しないことで、読み手がどのように受け取ってもいいというねらいもあって、あえてこのようにした。<br>吉田委員からは、主語は子ども若者で、認めはあえて入れる必要はないのではという意見を言っていただいた。 |
| 益田委員 | 認めは入れないで活かしていくだけでもいいと思う。 |
| 吉田委員 | 最後の締めの部分は、まち小田原で締めると、まちづくりの方針になってしまわないかと少し疑問に思う。 |
| 笠原会長 | 部会の中では、社会だと大きくなりすぎるのではということで、小田原の地域の特性、愛着を持つということ、という意味から小田原で締めるのも良いのではという意見だった。社会を目指すというニュアンスだといかがでしょうか。 |
| 吉田委員 | 青少年の育成方針なので、「個々の多様性を生かしていくことができるように支援します」みたいな終わり方なのかとわたしの中では思っていた。 |
| 伊東委員 | 前回の会議において、総合計画のまちづくりの目標が話に出てきていて、最終的には「子どもが夢や希望を持って成長できるまち」の実現に向けた方針だと思っているので、まち小田原でもいいと思った。 |
| 益田委員 | 小田原の中で様々な計画があり、縦で作っていくと関連性が無くなるので、横との繋がりを持ちたいという感覚はある。総合計画みたいになってしまうといった意見は確かにある。 |
| 竹内委員 | 基本方針がどんな施策をするのか具体的なことが３つ並ぶのであれば、どんな社会にしたいか、より広い概念を目標においても理解しやすいのではないかと感じた。 |
| 山下部長【事務局】 | 目標は一番大きなところであり、基本方針の中に①支援とあり、②環境づくりはまちづくりに近いと思う。目標については、支援よりは広い意味で捉えられるほうが良いのではと思っている。神奈川県の指針の目標については、「目標とする社会」という言い方になっている。 |
| 笠原会長 | 目標はできるだけ大きく整理したほうが様々なものを受け入れやすいのではないか。どのような整理をすると、今後に向けて、市民の方々に共有できる目標となるかを考えていきたい。 |
| 永森委員 | 目標は基本方針の上にくるのと、多様性を認め、生かしていくことを支援、それを創っていく必要があるので、我々がどこのまちなのか、主張する「小田原」が入っていても良いのではないかと思う。 |
| 塩浦委員 | 小田原のまちに住む市民が主語でよいのではと思っている。多様性を尊重するといったことは大切。我々、小田原に住む市民が、そのようなものを尊重し、こういうまちを創っていくという目標にすべき。目標は目指すべき姿、言葉にとらわれすぎずにシンプルなものにしたほうが分かりやすい気がする。 |
| 岩崎委員 | 方針を言葉で細かく説明するよりは、スローガン的なものにしたほうが分かりやすいのではと考えている。部会案から来た「～まち小田原」でいいと思う。 |
| 富樫委員 | まちづくりと切り離さずに、連携して考えて良いかと思う。 |
| 吉田委員 | 最終的に大きな文章の主語は支援者になると思う。ただ、子ども若者が受け身であってはならないし、だからこそ若者が主語であってほしいなと思っている。 |

| | |
|---|---|
| 笠原会長 | どうしても支援してあげるといった発想になりがちだが、彼らのポテンシャルを生かしていくといったことが基本で、そのようなことも意味も含めることも必要なのかなと思う。 |
| 中島委員 | 目標の下にある基本方針を進めていくと、結果として目標となるということだと、多様性を認めるとは違うのかなと。つながりあう、共に生きるなどだと子ども若者が主語の方が分かりやすいかと感じた。 |
| 吉田委員 | この目標案だと、子ども若者が現状に留まっているように感じていて、子ども若者が社会を切り開いていけるようなものが良いと思っている。この先何が起きるかわからない社会をどう生き抜いていくかがあると良いなと思っている。子ども基本法の特徴としては、子どもが意見を言いながら社会を作っていくということが書かれている。令和５年度は違う展開が始まっていて、子どもが意見を言いながら社会を創っていくという要素が入ると良いと思う。 |
| 竹内委員 | 基本方針にある生きる力を、吉田委員が言われている意味合いに置き換えられればよいと思う。生きる力は、抽象度が高い言葉だと思うので、変動的な世の中でどう生きるかという意味合いが入ればよいと感じた。<br>あと目標の方については、主語は、子どもがどのようにいられるまちと置いて、わたしたちがそれを目指すということだと思う。文章中の主語は子ども若者で良いと思う。 |
| 笠原会長 | ホワイトボードに書いていただいている内容を見ながら、お隣同士で言葉にしていただいて、思考を整理していただきたいと思う。５分程ざっくばらんにお隣同士で話していただきたい。 |
| | （５分程度隣同士で議論） |
| 笠原会長 | 伊藤委員と、竹内委員から順番にどのような話が出たのか伺いたい。 |
| 竹内委員、伊藤委員 | 目標の部分で、子ども若者がどうあるべきなのか、どういう姿が理想なのかをコンパクトに入れて、方針のほうで目標の姿、生きていくための大人の支援や環境づくり等を盛り込めればいいかなと。<br>生きる力は抽象度が高いかと思う。シンプルで分かりやすいもの、理解しやすいものにしたい。 |
| 塩浦委員 | 小学校高学年から３０歳くらい対象だが、どうしても自分自身が教員なので、高校生をイメージしてしまう。３０歳だと先生もいて、その人たちには支援は使いづらいなと言っていた。 |
| 吉田委員 | 年齢で分けないことは必要。子ども基本法でも発達の土壌にある人を子ども、支援が必要な方たちのためのものであり、年齢によって落ちこぼれる方がいないように、年齢を広くとることが大事かと思う。 |
| 笠原会長 | 様々な小田原市の年齢を対象としていくつかの施策がある中で、こちらの方針は、間の年齢をカバーするものとして設定されている。全体でみると、小田原市の施策はカバーできている。あえて、年齢で切ることなく、幅を持たせるという整理で良いと思う。 |
| 加藤委員、中島委員 | 多様性は確かによく使われている言葉であるが、大人は平等な視点を持って接していかなければならない。総合計画の中で、「子どもが夢や希望を持って成長できるまち」とあるので、まちみたいな締めくくりでいいと思う。 |
| 吉田委員、益田委員、永森委員、富樫委員 | 誰もが自分の意見をちゃんといえることが理想だが、現実は子どもたちが逆行しているようにも思える。ただ、一握りの子しかできていないと思うし、年齢の幅も広いので、それを考えると大きな目標がいいと感じた。教 |

| | |
|---|---|
| | 育振興基本計画に引っ張られすぎたので、もっと大きく捉えたほうがいいかなと思った。 |
| 笠原会長 | 目標はどのように落とし込むのが相応しいか。竹内委員や伊東委員が言われたように、短いフレーズで整理するか、広い言葉で捉える方が良いか。<br>本日決定をしないといけないので、方向性を明確にしていきたい。庁内の関係計画を整理して、関連づけて、一体性を持たせる言葉を使いたいと部会からは提案があった。部会からの提案のように広い言葉で捉える方でも良いか。 |
| 竹内委員、伊東委員 | 良いかと思う。 |
| 笠原会長 | 現在の目標の案だと、現状に留まっているかと思うので、将来の姿を入れ込めると両者の案が合体できるかと思ったがいかがか。 |
| 竹内委員 | 益田委員から意見のあったとおり、意見を言えるといったことは重要だと思う。言うという言葉を、抽象度を上げて、表現ができるとしてみても良いかと思う。 |
| 吉田委員 | 表現は、言葉だけではなく、物を作るなど、広く捉えて、表現できるという言葉は良いかと思う。 |
| 笠原会長 | 小中学校でも、自分の考えを言葉に表す、表現することが十分ではないという傾向があると出ているため、こういう言葉が入ることによってのアピール性も出ると思う。<br>皆さんの意見を踏まえると、「子ども若者が一人一人（個々）の多様性を生かし、自己を表現できる社会を目指す、支援を目指す」などになるか |
| 中島委員 | 多様性を大事にしていきたいということなら、表現という言葉も良いと思うし、あとは自分らしくという言葉も良いかと思う。 |
| 益田委員 | 多様性は自分らしくだと思うので、自分らしくの方がより多様性を表している気がする。<br>無理しなくても良いよ、自分が自分らしく、自分があるべきところにいることが出来るといった意味で良いかと思う。 |
| 笠原会長 | 多様性を自分らしくに置き換えて、「子ども若者が自分らしく生きる社会を目指す」のようなイメージでしょうか。 |
| 吉田委員 | 表現するというのも人前に出て何かする以外にも、黙ってそこに座っているのも一つの表現で、それを居ないものとして扱わず、引きこもりも一つの表現。自分らしさを表現できるなどそのような言葉でも良いと思う。 |
| 笠原会長 | 子ども若者が自分らしさを表現できる（社会を目指す・まち小田原）とするか。永森委員としては、自分のまちと認識できるまちとすることも大事なので、「まち小田原」でも良いのではないかと言われていた。 |
| 吉田委員 | 県の目標とする社会とあるのですが、市も目標ではなく、目標とする社会像とかにすれば、若者が生き生きと出来るまちにしようとしているということが目標となって、その下に方針があるとしても良いのではないかと思う。 |
| 竹内委員 | 「目標」という言葉を「目標とする社会像」とすることは可能なのか。表題を変えることは可能なのか。 |
| 筒井課長【事務局】 | 県は、「目標とする社会」となっている。 |
| | 目標とする社会として、「子ども若者が自分らしさを表現できるまち小田原」にしたら良いのではないか。 |
| 吉田委員 | こどもは、ひらがなと漢字どちらにするか。文科省は「子供」、厚生労働省は「子ども」、子ども家庭庁は「こども」となっている。 |
| 山下部長【事務局】 | 子ども若者部は最初の「子」が漢字となっている。 |

| | |
|---|---|
| 笠原会長 | 目標とする社会として、「子ども若者が自分らしさを表現できるまち小田原」で良いと思われる方は挙手をお願いします。 |
| | 全員賛成 |
| 笠原会長 | 目標とする社会として、「子ども若者が自分らしさを表現できるまち小田原」に決定します。 |
| 笠原会長 | つづいて、基本方針について検討していく。（部会案としては下記のとおり）<br>Ⅰ 子ども・若者の生きる力を育むための支援<br>Ⅱ 安心して子ども・若者が自立に向けて成長できる環境づくり<br>Ⅲ ①子ども・若者が進んで社会とつながりあう機会の創出<br>②子ども・若者が積極的に社会とつながりあう環境づくり<br>③子ども・若者が意欲的に社会とつながりあうきっかけづくり<br><br>目標を考える上で、基本方針についてもご意見をいただいていたが、竹内委員から基本方針Ⅰの「生きる力」は抽象度が高いと言われていた。そのような点も踏まえて、再度ご確認をいただきたい。また、Ⅲについては３案ありますので、御意見をいただきたい。 |
| 吉田委員 | 基本方針は並列なのか。基本方針Ⅱの心の安定が守られている、「安心して子ども若者が～」が一番基本なのかなと。次に、自分を肯定的に捉えることができ、最後に臆せず社会の中で生きられて、未来を切り拓くというイメージなのかと。 |
| 笠原委員 | 縦に書くと順位制があるように見えてくるが、少なくとも順位制が無いものとして考えていきたい。<br>吉田委員からは、基本方針Ⅰでは、心の安定が守られる「安心して子ども若者が～」がまず大事というご意見をいただいた。 |
| 岩崎委員 | 目標には、多様性という言葉が無くなってしまったが、多様性を認め合うことで、自分らしさが表現できるのではないか。 |
| 益田委員 | 基本方針Ⅲが社会に出ないとダメだよ、そうでなくてはいけないよといった感じに受け止められる。<br>ここは多様性を認めあうといった表現に修正が必要に思う。 |
| 永森委員 | Ⅲは～しなければならないといった意味合いに取られてしまう。こうあるべきだから、あなたはこうしなければならないと思われてしまう。押しつけのようなきつい言い方に聞こえてしまう。 |
| 笠原会長 | 多様性を認め合うというフレーズと、心の安心を担保していく、守っていくというフレーズが入る基本方針があったら良いのではないか。基本方針Ⅲについては、少し無理があるのではないかとのご意見があった。 |
| 吉田委員 | 語尾が、①支援、②環境づくり、③機会の創出は、わたしたちがしなければならいこと、この言葉は大事なので残したいと思う。 |
| 笠原会長 | 基本方針は、具体的な施策に繋がっていくので、ある程度カテゴリー分けをしていく必要もある。<br>Ⅰ 心の安定が守られ、安心して過ごせる環境づくり<br>Ⅱ お互いの多様性を認めあう機会の創出 |
| 吉田委員 | Ⅱの最後は、支援という言葉でも良いかと思う。なかなか多様性は、認め合うことが難しいと思うので、違う方同士で話し合ったり、講演を聞けたり、若者が自己表現できる場を設けるなど、多様性を認める支援があっても良いかと思う。 |
| 笠原会長 | 「生きる力」は皆さんからは特段ご意見はなかったが。 |

| | |
|---|---|
| 塩浦委員 | 神奈川教育ビジョンでは、①たくましく生きる力、②社会と関わりあう力とあるので、学校関係者は「生きる力」について違和感は無かった。どういう関わり方があるかは別だが、子ども若者が生きていくためには、社会と関わらないといけない、我々が支援しないといけないと文言は残す必要があると思う。 |
| 中島委員 | 生きる力については、社会力を置き換えたようですが、吉田委員からも話があった、激動していく社会を生き抜いていく、切り拓いていくと話が合った。教育長も言っているが、社会力は、子ども一人一人が充実した人生を送って、よりよい地域社会を創り出すと定義されている。生きる力は社会力として捉えてよいかと思う。 |
| 吉田委員 | 社会力も良いかと思うが、未来を切り拓く力だと、勢いがあって、将来の希望に繋がるかなと思った。見てすぐに分かる方が良いのではないか。 |
| 笠原会長 | 今までの意見を整理すると、<br>・未来を切り拓く力を育むための支援<br>・お互いの多様性を認め合うきっかけづくり<br>・社会と関わりあう環境づくり<br>・心の安定が守られ安心して過ごせる環境づくり |
| 益田委員 | 下２つをくっつけるのはどうか。「心の安定が守られながら、社会と関わり合う環境づくり」 |
| 吉田委員 | 「心の安定が守られ、安心して社会と関わり合える環境づくり」とかが良いのではないかと思う。 |
| 笠原会長 | 基本方針Ⅰ、Ⅱ、Ⅲと体系にする必要があるが、いかがか。 |
| 益田委員 | 基本方針Ⅰは、「心の安定が守られ、安心して社会と関わり合える環境づくり」なのではないか。Ⅱは、「未来を切り拓く力を育むための支援」、Ⅲは、「お互いの多様性を認め合うきっかけづくり」と思う。 |
| 笠原委員 | 視覚的に訴える部分がどうしてもあるので、皆さんのご了解を得て決めていきたい。<br>Ⅰ 心の安定が守られ、安心して社会と関わり合える環境づくり<br>Ⅱ 未来を切り拓く力を育むための支援<br>Ⅲ お互いの多様性を認め合うきっかけづくり |
| 吉田委員 | ことの大きさの順番を考えると、環境というと広い意味合いがあって、その中に支援があり、きっかけというとポイントになるかと思うので、良いかと思う。 |
| 竹内委員 | もともとの基本方針の案は主語が入っているが、この前に付けた方が良いのか。 |
| 笠原会長 | 個々にすると長すぎてしまうので、大きく上に「子ども・若者」と置くか。ただ、Ⅰの「心の安定が守られ安心して過ごせる環境づくり」は子ども・若者がを頭にもってくると、日本語がおかしくなってしまう。 |
| 山下部長【事務局】 | 県の指針だと、基本目標は、子ども若者が、子ども若者と、子ども若者のとなっており、必ずしも「子ども若者が」ではない。 |
| 笠原会長 | そうなると、<br>Ⅰ 子ども若者の心の安定が守られ、安心して社会と関わり合える環境づくり<br>Ⅱ子ども若者の未来を切り拓く力を育むための支援<br>Ⅲ 子ども若者がお互いの多様性を認め合うきっかけづくり |

| | |
|---|---|
| 中井副部長【事務局】 | Ⅲは、「子ども若者がお互いの多様性を認め合うきっかけづくり」となると、主語を子ども若者に限定していいのか、つまり大人を含めなくて良いのか議論していただきたいと思う。 |
| 永森委員 | お互いのだと、限定されてしまうと思うので、「子ども若者の多様性を認めるきっかけづくり」としたらどうか。 |
| 竹内委員 | 「子ども若者の多様性を認め合うきっかけづくり」であれば、子どもも大人も全部が含まれるのではないか。 |
| 吉田委員 | 「子ども若者の」が、認め合うにかかるのか、きっかけづくりにかかるのか。 |
| 益田委員 | 子ども若者の後に「、」が入ったら良いのではないか。 |
| 竹内委員 | もう少し違う表現が他にないかと考えている。 |
| 岩崎委員 | きっかけづくりではなく、環境づくりの方が良いのではないか。<br>子ども若者の後に「、」はやはりおかしいかなと思う。 |
| 益田委員 | 多様性を全部の人の多様性と言いたい。これだと、子ども若者に限定されてしまう。 |
| 岩崎委員 | わたしも最初は、「社会の」と考えていた。 |
| 益田委員 | 「子ども若者が社会の多様性を認め合う」としたらどうか。 |
| 吉田委員 | 社会の多様性だと、認め合うは繋がらない。 |
| 永森委員 | 小田原に住んでいる人全体の多様性、みんなの多様性を認め合うとしたいが。 |
| 竹内委員 | 認め合うは、目標に立ち返ってみると、多様性と出会う、そのきっかけづくりとしても良いのではないか。 |
| 笠原会長 | 「子ども若者が社会の多様性と出会うきっかけづくり」となるか。 |
| 吉田委員 | 実施方針に落とし込むことを考えると、認め合うよりかは出会う方がハードルは低いと思う。 |
| 笠原会長 | 認め合うは何でもって評価したら良いか分かりづらい。きっかけを提供できる方が良いのでは。 |
| 中島委員 | 具体的な施策になっていったときに、子ども若者が社会の多様性と出会うことの施策をとることが本来の目的なのか、不思議に感じた。最初の目標だと、子ども若者の多様性を周りの大人が認める、これだと上から目線すぎるという意見があったが、具体的な施策となった時にこの方向性になるかと思ったが。 |
| 吉田委員 | もともとは、子ども若者の多様性を社会が認める、だったのではないかというご質問かと思う。社会の多様性と出会うことは、自分がマイノリティーであったとしても、社会の中でもそういう方もちゃんと生きていると分かるし、多様な人や生き方に出会えれば良いのではと思う。 |
| 中島委員 | 社会が認めてくれるから、自分らしくいられるということもあるかと思う。 |
| 笠原会長 | 言葉のあやにはなるが、社会で認められないと、自分らしくいられないというのも違うと思う。社会の中で、多様性があるから、自分自身もそのままで良いと思えるのではないか。 |
| 中島委員 | 両輪であると思う。 |
| 笠原会長 | 鏡の両面みたいなのかと思う。それをどちらから見ているのかということかと思う。 |
| 中島委員 | 今の経緯は、補足説明で記載されれば良いのかなと思う。 |
| 笠原会長 | それでは、最後に確認をさせていただく。基本方針については、こちらの３本で決定してよろしいか。良いと思われる方は挙手をお願いします。 |

| | |
|---|---|
| | Ⅰ　子ども若者の心の安定が守られ安心して社会と関わり合える環境づくり<br>Ⅱ 子ども若者の未来を切り拓く力を育むための支援<br>Ⅲ 子ども若者が社会の多様性と出会うきっかけづくり |
| | 全員賛成 |
| 笠原会長 | 基本方針については、こちらの３本で決定とします。<br>この後は、７月に青少年課で作成した実施方針について部会で検討し、その後は冒頭でお示ししたスケジュールで進めていきたいと思うので、よろしくお願いします。 |
| 永森委員 | この案がどういった経緯で作られたのか記録してほしい。 |
| 筒井課長【事務局】 | こちらで議事録等を作成して、ご意見をまとめていきたい。 |